

基準 9. 教育研究環境

基準9. 教育研究環境

9-1. 教育研究目的を達成するために必要なキャンパス（校地、運動場、校舎、等の施設設備）が整備され、適切に維持、運営されていること。

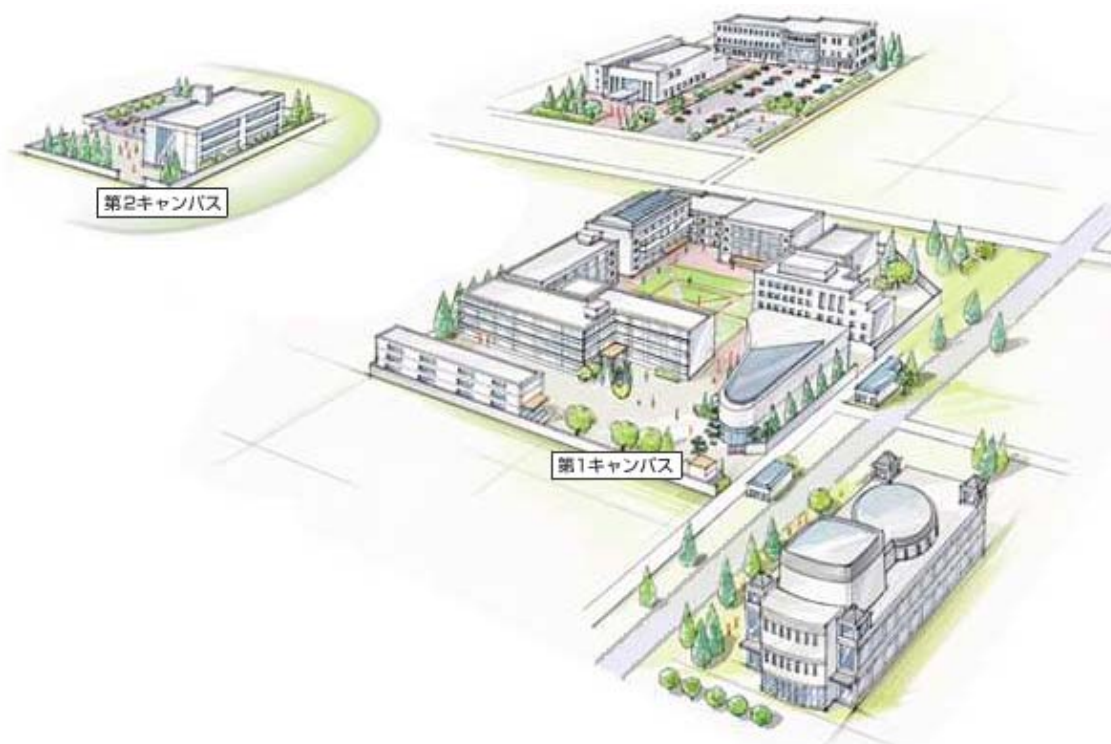
(1) 事実の説明（現状）

9-1-① 校地、運動場、校舎、図書館、体育施設、情報サービス施設、附属施設等、教育研究活動の目的を達成するための施設設備が適切に整備され、かつ有効に活用されているか。

本学校法人は大阪音楽大学、音楽専攻科、大阪音楽大学短期大学部、専攻科、大阪音楽大学大学院を開設し、それぞれの学校が豊中市内の校地を共用している（以下、基準9の記述には上記の学校をすべて含む）。図表9-1-1及び図表9-1-2に示す通り、庄内幸町、庄内西町、野田町に広がる第1キャンパス、名神口の第2キャンパスに加え、豊南町の校地は女子学生寮、付属音楽幼稚園の敷地として利用されている。さらに、これらの校地からおよそ20km北に位置する箕面市下止々呂美の山間部に校地があり、課外活動や合宿での使用を想定した箕面学舎を保有する。

関西の主要な駅・空港から本学キャンパスへのアクセス方法を図表9-1-3に示した通り、本学のキャンパスは郊外ではなく交通至便な都市部に位置している。このことが、キャンパス内のザ・カレッジ・オペラハウスやミレニアムホール、あるいは大阪市内の主要な音楽ホールにおける演奏会開催等、音楽活動の面で大きくプラスに作用している。

図表9-1-1 <キャンパスマップ>



図表9-1-2 < 周辺地図 >



図表9-1-3 < 関西主要駅からのアクセス方法 >

新大阪	4分	JR	大阪・梅田	10分	阪急電車	庄内			
神戸	25分	阪急電車 (特急)	十三	5分	阪急電車	庄内			
京都	40分	阪急電車 (特急)	十三	5分	阪急電車	庄内			
奈良	40分	近鉄電車 (特急)	難波	7分	地下鉄	梅田	10分	阪急電車	庄内
和歌山	55分	南海電車 (特急)	難波	7分	地下鉄	梅田	10分	阪急電車	庄内
大津	40分	JR (新快速)	大阪・梅田	10分	阪急電車	庄内			
関西国際空港	65分	JR (快速)	大阪・梅田	10分	阪急電車	庄内			
大阪空港	3分	大阪 モノレール	蛍池	11分	阪急電車	庄内			

第1キャンパスへは

- ・ 大阪・梅田から阪急電車宝塚線（普通）で4つ目、庄内駅下車。
西出口より北西へ約700m。
- ・ 新幹線新大阪駅から車で約15分。
- ・ 大阪空港（伊丹）から車で約15分。
- ・ 大阪空港（伊丹）からモノレール（大阪空港～蛍池）—阪急電車（蛍池駅から梅田行き普通）を經由して約30分。
- ・ 名神高速道路・豊中インターチェンジ、阪神高速道路・豊中南インターチェンジから車で約5分。

第2キャンパスへは

- ・ 第1キャンパスから北西へ約1,000m。（第1キャンパスH館西口からスクールバス運行）
- ・ 名神高速道路・豊中インターチェンジ、阪神高速道路・豊中南インターチェンジから車で約2分。

付属音楽幼稚園へは

- ・ 阪急・庄内駅から東へ約1,200m。

本学の主たる教育研究活動の場である第1キャンパス、第2キャンパスにおける校舎の概要は次の通りである。

第1キャンパス

（庄内校地）

- A号館 学務センター、エクステンション・センター、事務局、教室、レッスン室
- B号館 教室、レッスン室
- C号館 図書館、教室、レッスン室
- D号館 試聴室、視聴覚室、教室、レッスン室
- E号館 練習室、クラブ用部室
- F号館 演習室、教室、レッスン室、研究室、練習室
- G号館 学生自治会室、練習室
- H号館 教員研究室
- J号館 学生サロン「ぱうぜ」
- N号館 入試広報デスク

（西町校地）

- L号館 ザ・カレッジ・オペラハウス
- M号館 チケットOCM、広報室

（野田校地）

- O号館 演習室、教室、レッスン室、研究室、練習室
- P号館 音楽ホール型大教室「ミレニアムホール」、大学院研究室、レッスン室

第2キャンパス

（名神口校地）

- K号館 音楽博物館、録音スタジオ、屋内体育施設、教室、レッスン室、練習室、食堂

本学の主要な施設の概要を以下に記載する。

— 運動場および体育館 —

併設教育機関と共有する運動場及び体育施設として、第1キャンパス・野田校地内に約5,986.37㎡の屋外運動場を有する。この内、一部はテニスコートとして整備されているが、他は中庭、駐車場との兼用になっている。また第2キャンパス・K号館4階には1,615.03㎡の屋内体育施設があり、主として体育の授業で利用されている。

平成12(2000)年に野田校地にP号館が新たに建設されたこと、またこれにともない駐車場が整備されたことなどから、屋外運動場の機能は低下した。一方、K号館の屋内体育施設は、基本的に体育の全クラスをここで開講していることから、稼働率が高い。ただし、第1キャンパスからおよそ1,000mの距離があり、スクールバスの利用も可能であるが、移動時間を考慮した授業運営が必要である。

— 図書館 —

大阪音楽大学付属図書館は総数129,000点の資料を所蔵しており、この内、楽譜は貴重な原本を含め42,000点、CD、DVD等の視聴覚資料は50,000点である。データの遡及入力を経て、これらの目録をOPACで検索することが可能となった。開館時間は月曜日～金曜日9:20～18:00、土曜日9:20～13:30を基本としている。

また本図書館は私立大学図書館協会、音楽図書館協議会(MLAJ)に加盟しており、教職員、在学生はこれらに加盟する各図書館において閲覧、調査、貸出などのサービスを受けることが利用できる。

— L号館 ザ・カレッジ・オペラハウス —

ザ・カレッジ・オペラハウスは平成元(1989)年、創立70周年記念事業の一環として竣工した日本初のオペラハウスである。

年間を通じて、専属の管弦楽団、合唱団による定期演奏会、オペラ、室内楽など様々な演目を開催している。この内オペラについては、7月のサマーオペラ「モーツァルト・シリーズ」、および平成13(2001)年11月から新たにスタートした「20世紀オペラ・シリーズ」の年2回公演が定着した。

またオーディションによって選抜された学生による「ザ・コンチェルト・コンサート」、「ピアノ・グランド・コンサート」、「学生オペラ」などの演奏会も活発に開催され、学習成果の発表の場となっている。

図表9-1-4 ザ・カレッジ・オペラハウス概要

敷地面積	建物面積	延床面積	階数	残響時間	客席数	舞台面積	後ろ舞台
3,609㎡	2,256㎡	5,489㎡	地上7階・地下2階	1.2～1.4秒(満席時)	756席	580㎡	48㎡

— P号館「ミレニアムホール」 —

学生が音響や照明等の機器を操作し、実践を通して舞台機構を学修することを目的として、平成12(2000)年9月に音楽ホール型大教室「ミレニアムホール」を竣工した。この施設は第1キャンパス（野田校地）のP号館内に位置し、二重屋根、二重壁構造の採用により外部の騒音を遮断、また空調も消音化され、音響面では本格的な音楽ホールとなっている。

学生による自主演奏会、授業延長上の発表会、教員の研究発表の他、公開講座としての

レクチャーコンサートなど通年的に稼働率の高い施設である。

図表9-1-5 ミレニアムホール概要

建物面積	延床面積	階数	残響時間	客席数	舞台面積
1,588㎡	2,601㎡	地上3階	1.7秒	302席(内可動62)	106㎡

— 音楽博物館 —

平成14(2002)年4月1日、音楽研究所(音楽文化研究室、民族音楽研究室)と楽器博物館を統合して音楽博物館に改称した。この施設は第2キャンパスのK号館4階に位置しており、開学以来の音楽研究の成果をアーカイブ化すること、さらに音楽資料を総合的に収集、研究することを目的とする独自の博物館である。開館時間は月曜日～金曜日の10:00～16:00を基本とするが、月1回程度、土曜日に開館(13:00～16:30)することがある。

研究領域は主として「世界の楽器と音楽」、「関西の西洋音楽」、「関西の伝統音楽」の3分野であり、楽器に関してはサントリー株式会社より寄贈を受けた弦楽器コレクション計76点に世界的に貴重な資料が含まれていることから、これを常設展示としている。

さらに平成16(2004)年4月には創立者である永井幸次の展示コーナーを設け、関西における洋楽教育の先駆者であった幸次の年譜、自作曲の楽譜、愛用のオルガン等を公開している。

また平成17(2005)年度より、「ホームページ」上での公開を視野に入れ、博物館が所蔵する資料のデータベース化を開始した。平成20(2008)年度中に完了予定である。

図表9-1-6 音楽博物館 所蔵資料の内訳(平成17(2005)年度)

楽器	約2,300点
書籍	約10,000点
視聴覚資料	約6,000点
関連領域の研究論文	約5,000点
関西の民族音楽に関する資料	約14,000点
関西の洋楽史(明治～現在)に関する一次資料	約260,000点
大阪音楽大学の歴史に関する資料	約60,000点

図表9-1-7 音楽博物館入館者一覧

単位(人)

年度	学生	教職員	授業参加	一般	グループ見学	催事参加者	合計
2003年度	215	225	288	280	427	464	1,899
2004年度	290	151	283	300	395	1,042	2,461
2005年度	254	75	122	378	454	799	2,082

— 情報サービス・IT環境 —

学内数か所に学生用のコンピュータを設置し、授業の準備や就職情報の閲覧などに有効活用されている。とりわけ、学生サロン「ぱうぜ」の2階にはインターネット接続が可能

な端末10台を配置し、学生の利用頻度が非常に高いことから、今後の増設を検討している。

図表9-1-8 情報機器等の設置状況

教室	機器の概要
F212 コンピュータ演習室	Win 37台、プロジェクタ、スクリーン
F213 コンピュータ演習室	Win 21台、プロジェクタ、スクリーン
K118 DTM演習室	Mac 24台、教員用1台、プラズマモニタ2台、MIDI音源、MIDI鍵盤、MIDIピアノ
K号館1階コンピューター・ルーム	Win13台 Mac1台 MIDI音源、MIDI鍵盤
K504 MIDIテクノロジー演習	Win 20台、教員用1台、MIDI音源、MIDI鍵盤
F313 ML教室	電子ピアノ21台、制御用PC
F120 ML教室	キーボード・シンセサイザー41台、大型モニタ2台
ぼうぜ	Win 10台（インターネット接続可）

— 学生寮 —

女子寮「豊南寮」は第1キャンパスからおよそ1,200mの場所に位置し、定員191人、全室フローリングの個室でピアノの持ち込みが可能な仕様となっている。基本的に昼夜とも2人の職員が常駐し、在寮生の急病などに対処している。

9-1-② 教育研究活動の目的を達成するための施設設備等が、適切に維持、運営されているか。

施設設備は管理事務部門により統括され、営繕業務を委託している業者と連携を取り、授業のための設営や日常のメンテナンスなどが支障なく実施されている。また学外の専門家からコンサルティングを受け、法定点検などの他に日常的に不具合の発生などを細かくチェックし、改修工事に関する計画を立案するなど校舎の維持管理に努めている。

ザ・カレッジ・オペラハウスには舞台機構の専門家を職員として配置し、各種の公演に際して施設設備上の問題点がないかどうか、万全な点検が行われる。また音楽博物館では、専任教員および技術員が専門的な見地から、資料保全の目的もあり、施設設備の状況について常に細心の注意を払っている。

教育研究用の情報機器に関してはシステム管理室が授業担当教員や学生の意向に基づき機器の選定や設置、維持管理を担当する。

(2) 9-1の自己評価

第1キャンパスは、大阪市に隣接する豊中市の南部に位置し、交通アクセスは良い。また第2キャンパスへはおよそ1,000mの距離があるが、スクールバスでの移動が可能である。この2つのキャンパスの周囲には住宅の他に商業施設や工場などが密集していることから、自然環境不足は否めない。箕面市の山間部に位置するセミナーハウスがこれを補完できるのであるが、距離的な問題もあり、近年の利用者は極めて少ない。

学修や研究の成果を演奏で発表することが音楽大学の特質である。この意味において、

ザ・カレッジ・オペラハウスおよびミレニアムホールは、選抜された学生による演奏会や、自主公演などにおいて活発に利用されており、教育研究にとって極めて有効性の高い施設であると自己評価する。一方、音楽博物館に関しては、今後学生の見学やレファレンスの利用を増やすことが教育上の課題である。

また情報機器についてはインフラ整備を事務系LANから着手したこともあり、教育研究に関する環境整備は後発となった。今後MIDIの活用など、音楽分野でのコンピュータ利用の環境を整備する必要がある。

(3) 9-1の改善・向上方策(将来計画)

キャンパスは都市部に位置しており、校地の拡張、校舎の増設は物理的に困難な状況にある。したがって今後は、年次計画によるリニューアル工事等により既存の施設の経年劣化を可能な限り防ぎ、教育研究環境の質を維持、発展させることに注力したい。

またこの取組みは単に美観を向上させるだけではなく、例えば各教室のサイズや機能性を見直すなど、現代の大学へのニーズに応えるものである必要がある。

近年、各大学では学生が「ホームページ」上でシラバスを閲覧し、教務上の諸手続を行うなど、学生向けのインターネット環境が急速に充実している。休講情報に限らず、今後様々な学生向けの情報サービスを展開するために、サーバの増設やセキュリティ強化など、インフラの整備に早急に着手したい。

9-2. 施設設備の安全性が確保され、かつ、快適なアメニティとしての教育研究環境が整備されていること。

(1) 事実の説明(現状)

9-2-① 施設設備の安全性が確保されているか。

法令に基づき全ての校舎について耐震診断を受け、基準を満たしていない校舎は順次補強工事中である。また一部の教室、倉庫から発見されたアスベストの除去工事に関しては、平成18(2006)年4月の授業開始までに完了する予定である。

また防犯対策として第1キャンパス、第2キャンパス、および豊南校地には警備員を配置し、不審者の発見等に取り組んでいる。特に学生寮がある豊南校地では、ガードマンの配置を24時間体制とし、さらに寮内には職員が昼夜交代制で24時間入室している。またキャンパス内で車輛の出入りが多いエリア2か所には監視カメラを設置し、進入した車の映像を一定期間保存することとしている。

防災の面では、所轄消防署の指導を受け、毎年職員を中心に消防訓練を実施している。さらに冊子「防災のてびき」を校地毎に発行し、校舎の特徴などをふまえながら、消火栓や避難器具の使用方法などを周知している。さらに「自衛消防隊規程」を現在作成中であり、火災発生時の役割分担、連携などについて今後学内共通のルールとする予定である。

9-2-② 教育研究目的を達成するための、快適な教育研究環境が整備され、有効に活用されているか。

平成7(1995)年に学生サロン「ぱうぜ」が竣工し、学生の憩いの場として有効に活用さ

れている。グランドピアノの形を模した2階建てのこの建物には、1階に食堂、2階にコンビニエンスストア、ベーカリーなどの施設があり、主として学生の食事、休憩のためのスペースとして用いられているが、2階にはグランドピアノを設置し、サロンコンサート形式の演奏会の開催が可能である。また前述の通り、この「ぼうぜ」においてインターネット接続が可能なパソコンコーナーを学生に開放しており、稼働率は極めて高い。

第2キャンパスのK号館にも、学生向けの第1・第2サロンを設けており、主として食堂として利用されている第1サロンは、今後改修工事を行い、ジャズ・ポピュラー専攻生のためのライブハウスとして活用することが具体化しつつある。

またバリアフリーの面では、障害者用トイレの新設、段差部分の一部スロープ化、点字ブロック敷設など、徐々にではあるが取組みの範囲を拡大している。K号館のエレベーターは障害者の来館を想定し、過年度に補助金を得て改修したものである。

大学として快適な環境づくりを目指すと同時に、ゴミの分別や不要書類の再生紙へのリサイクルなど、地球環境にも配慮している。これと合わせて、校舎内の全面禁煙に関しても、快適な教育研究環境という観点から取り組んでいる。

(2) 9-2の自己評価

耐震補強は、今後の利用計画などの都合で1校舎のみ工事が完了していないが、アスベストに関しては全て措置済みの状態となった。また防犯や防災に関しても、一部のルールを検討中ではあるものの、所轄の警察署が地域で展開する防犯運動に大学として協力していることや、職員が救命救急講習に積極的に参加していることなどから、意識は高まっている。以上のような理由から、施設設備の安全性は概ね確保されていると自己評価する。

昼食時には学生サロン「ぼうぜ」はかなり混雑するが、それ以外の時間帯はミーティングなどに幅広く活用されている。また教室やレッスン室の中には、狭隘で設備が必ずしも十分だとは言えない現状もあるが、改修工事などにより順次充実を図っている。このように、快適さという観点から施設設備を考えた場合、一部に改善の余地が残るものの、基本的に良好な状態にあると自己評価できる。

(3) 9-2の改善・向上方策（将来計画）

今のところ電気、ガス、水道などのライフライン系に特に問題は生じていないが、経年劣化が想定される部分もあり、今後は安全対策とアメニティの両面から十分な保守点検を行いたい。特にCO₂削減などの意味もあり、一部の古い空調機は更新する必要がある。

また音楽大学は視覚障害を持つ学生を受け入れることが多い為、各校地、校舎に点字ブロックを敷設するなど、バリアフリー対策を一層充実させる必要がある。

アメニティの向上という点では、キャンパスの周囲に自然環境が少ないことから、花壇や樹木を増やすなど、キャンパスの緑化を推進することが有効な方策である。

[基準9の自己評価]

キャンパスが関西各地からアクセスの良い豊中市に位置していることは音楽活動を展開する上で、すなわち「音楽文化の発信地」という観点から考えた場合、プラスに作用する部分が多い。

その一方で、郊外型大学の広いキャンパスが持つアメニティや機能性には及ばない部分も多い。冒頭のイラストで示した通り、キャンパスは庄内幸町、西町、野田、名神口の4つの校地に分かれた状態であり、名神口への移動は多少の不便さをとまなう。

このように立地条件に起因する長所短所は存在するが、本学が少人数教育を中心とする音楽の単科大学であることから、その教育研究目的を達成するための施設設備の状態は基本的に良好であると自己評価する。

【基準9の改善・向上方策（将来計画）】

キャンパスの周辺環境を考えた場合、既存の校地や校舎の規模を拡大することは困難な状況にある。したがって、教育目標を達成するために施設設備を維持、運営する方策は年次計画によるリニューアルが基本となる。この場合、現在の音楽大学に対するニーズを十分に把握し、単なる美観の向上や不具合の補修にならないようにしたい。

またIT化の取組みに関しては、保有する音楽関連資料のデータベース化、公開などが当面の課題となる。そのために、業務系のLANから始まったインフラを整備する。またMIDIなど音楽制作の現場でコンピュータを用いることが一般化する中で、音楽大学としてカリキュラムを充実させるとともに、ハード面をさらに充実させたい。